

## 白浜レスキューネットワーク通信 6～9月号

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 3137-8

TEL&amp;FAX0739-43-8981

http://srnw.or.jp

e-mail yabiumi@gmail.com

理事長 藤藪庸一

郵便振替 00920-6-85589 口座名：白浜レスキューネットワーク  
紀陽銀行白浜支店普通預金 589389 口座名：NPO特定非営利活動法人  
白浜レスキューネットワーク**自殺者救済活動**

6月1日～6月30日

保護件数 2件(男性 2名)

自立件数 2件(男性 2名)

帰宅件数 2件(女性 2名)

○7日、昨年から家族を離れて共同生活していた女性が、もう一度家族とやり直す決心をして帰宅した。ここでの生活で自分の内面の変化を感じながら、自信も取り戻しつつある状態だ。連絡を取りつつ応援したい。

○13日、男性を保護。ホテルの仕事が減り、収入が激減。寮からの退所しなければならなくなり、途方に暮れていた。17日、農業法人への就職が決まり、寮へ移って行った。

○16日、4月に保護した男性が、関東にいる友人を頼って引っ越していくことになった。これまで調理の仕事一筋だったが、白浜に来て、どんな仕事でもできると感じたとのこと。がんばってほしい。

○18日、男性を保護。とりあえず帰宅した。共同生活に加わる可能性あり。

○20日、共同生活に加わって2年になる女性が自宅へ帰ることになった。

7月1日～7月31日

保護件数 3件(男性 2名、女性 1名)

自立件数 1件(男性 1名)

帰宅件数 4件(男性 1名、女性 3名)

○7日、女性を保護。自宅へ帰る。

○12日、1月から共同生活していた女性が自宅へ帰った。生活訓練を行ってきたが、自宅でも規則正しい生活を送ってくれればと思う。

○14日、4月から共同生活していた女性が自宅へ帰った。家族としっかり向き合うことをして

ほしい。

○14日、男性を保護。第三ラウンド開始。

○18日、男性を保護。

○31日、共同生活していた男性が近くにアパートを借りて自立した。

8月1日～8月31日

保護件数 3件(男性 3名)

自立件数 1件(男性 1名)

帰宅件数 2件(男性 2名)

○6日、昨年から共同生活していた男性が、名古屋の人材派遣会社に就職を果たし自立。

○8日、男性を保護。

○17日、警察からの依頼で男性を保護。20日に自宅へ帰る。

○28日、警察からの依頼で男性を保護。

9月1日～9月30日

保護件数 1件(男性 1名)

帰宅件数 2件(男性 2名)

○1日、8月に保護した男性が帰宅。奥様が迎えに来られた。

○19歳の男性を保護。滞在中、浜を散歩している男性に、声をかけ、花火に誘ってくれた人がいたらしく、モスバーガーをごちそうになったようだ。その人たちの名前を聞くと、以前、中学校の心の相談室に勤務していた時に関わった子供たち(現在は20代)だと分かった。男性は、うれしかったようで、心が和み帰る決心をし、自宅へ帰った。

**生活自立支援活動**

6月1日～9月30日

滞在者数 12人(男性 8人、女性 4人)

○デイサービスやショートステイなどを利用しながら共同生活を続けている男性は、ショートステイの頻度を月二回にして、他の共同生活者の負担を軽減することにした。どうしてもトイレなどで失敗することも増えたため。

○警備会社に就職した男性は、8月にアパートへ引っ越し予定で動いていたが実現せず。コロナワクチン接種終了後に引っ越したいとのこと。様子を見ながら自立を促している。

○50代女性は、昔のことを思い出しては落ち込み、人との関係や仕事にも影響が出る。気分にかけてしまう。

○新聞配達をしている50代男性は、まちなかキッチンの仕事でも、気分の浮き沈みがあるものの続けることができている。過去に迷惑をかけたことを清算したくて、親族に手紙を書き送った。

○まちなかキッチンで働く40代男性は、今までの人生で積みあがってきたものがなく、これからの人生を考えると先が見えてきている感があり、希望が見えてこないと感じているようだ。共同生活に加わって6年、以前の自分とは違う自分に成長できた(積みあがった)ところを確認し、さらに地道に与えられた役割に取り組んでいくことで、さらに積みあがった自分を見ることになるのではないかと話した。

○まちなかキッチンで働く30代男性は、アパートへ移る話をしながらも、実際にはなかなか行動に移せないでいる。何が原因なのか。仕事面では管理し引っ張る側になりつつある。

○通信高校3年の男性は、卒業後の進路で、自衛隊の試験を受け合格した。

○40代男性は、近所の草引きや掃除などを毎日している。近所の人から声をかけてもらえるようになり、受け入れられ、頼りにされるようになってきた。今までこういう経験はなく、本人が一番驚いている。

○まちなか惣菜で働く50代女性は、ずいぶんと精神的に落ち着いている。私たち夫婦に守られている感があるようだ。仕事にも意欲的に取り組んでいる。

○まちなかキッチンとコンビニをかけもちしている20代女性は、継続して仕事に行き続け

ている。引きこもらなくなってきた。泣くことも少なくなってきた。

○4月29日に保護した夫婦は、散歩に出かけたり、礼拝に来たり、外に出始め、人との関わりも持つようになった。通院先でも病状に改善が見られるとのこと希望が出て来た。

### **自殺予防活動**

#### ・フードバンク、フードドライブ

グルメシティの白浜店様、新庄店様、東陽店様、明洋店様、万呂店様、御坊店様、ショッピングセンター様のご協力に感謝。

また多数の方から、食料品(お米、野菜、缶詰、おもち、ケーキ、パンなど)の提供を頂き感謝。

白浜町在住の男性に、まちなかキッチンの無料の弁当を毎日届けている。

田辺市在住の親子、南部町在住の男性、白浜町在住の男性に、食糧援助を行なった。

#### ・明誠高校和歌山白浜SHIP(定時制高校)

ふれあいルームとの連携で、授業の視察に来てもらった。来年4月からの生徒を募集している。

#### ・コペルくん活動

現在3~6名の小学生が来ている。

#### ・少年少女漂流隊

第一小学校のクラブ活動において、はじめ人間自然塾の出前版を行っている。副理事長が講師として、毎回子どもたちを楽しませている。

#### ・農業

私たちの活動で、共同生活に加わった人を受け入れていく最初の要になっている働き。現在、まちなかキッチンの裏山と、富田にあるビニールハウスで季節の野菜を栽培している。富田で作っている小松菜、ほうれん草などは、まちなかキッチン、Aコープあぜみちへ出荷している。

#### ・保養所

コロナ渦で宿泊なし。施設管理のみ継続。